

自己評価検証委員会
情報・人間工学領域分科会 議事要旨

1. 日時： 令和4年3月18日（金） 8時50分～12時25分

2. 場所： オンライン会議（Teams）

3. 議事概要

(1) 質疑・意見交換

(1-1) 社会課題の解決に向けて全所的に取り組む研究開発

- 生活に溶け込む先端技術を活用した次世代ヘルスケアサービスに資する技術の開発
- 全ての産業分野での労働生産性の向上と技能の継承・高度化に資する技術の開発

➤ 資料2-3)に基づき、研究領域より説明が行われた。その後、当該説明、および事前に視聴していただいた動画の内容について質疑応答が行われた。委員からは、QoW の評価や感情の記録システムについて質問やコメントがあった。

(1-2) 経済成長・産業競争力の強化に向けて各領域で重点的に取り組む研究開発

- 人間中心のAI社会を実現する人工知能技術の開発
- 産業や社会システムの高度化に資するサイバーフィジカルシステム技術の開発
- ライフ・スペースを拡大するモビリティ技術の開発

➤ 資料2-3)に基づき、研究領域より説明が行われた。その後、当該説明、および事前に視聴していただいた動画の内容について質疑応答が行われた。委員からは、AI、サイバーフィジカル、歩行シミュレーションによる転倒リスクの計算、自動運転、自動運転のための地図生成等に関する質問やコメントがあった。

(1-3) イノベーション・エコシステムを支える基盤整備

- データ連携基盤の整備
- デジタル・サービスに関する標準化

➤ 資料2-3)に基づき、研究領域より説明が行われた。その後、当該説明、および事前に視聴していただいた動画の内容について質疑応答が行われた。委員からは、基盤整備はとても大切なのでぜひ進めて欲しいというコメントの他、産総研の研究開発 DX、デジタイゼーション等に関する質問やコメントがあった。

(1-4) 全体質疑・意見交換

- 資料2－3)に基づき、研究領域より説明が行われた。その後、当該説明、および事前に視聴していただいた動画の内容について質疑応答が行われた。委員からは、特許の扱いや、目標（テーマ）の研究ユニットへの割り振り等領域の戦略やマネジメントに関する質問やコメントがあった。

(2) 委員討議

- 委員による討議が行われた。

(3) 主査からの講評

- 主査から講評が行われた。個別の研究については、目標に対して良い成果が得られている。一方で、「それ以上のことができるのではないか？」という期待があり、また、介護や健康と言った未だ社会実装の受け皿となる企業が無い分野においても、研究を行いその可能性を示して欲しいというコメントがあった。

4. 分科会委員（敬称略、委員五十音順）

原山 優子	国立研究開発法人理化学研究所 理事	（分科会主査）
岩下 直行	京都大学 公共政策大学院 教授	
芳賀 繁	株式会社社会安全研究所 技術顧問	

5. 配布資料

- 資料1－1) 資料一覧
- 資料1－2) 議事次第
- 資料1－3) 分科会出席予定者
- 資料1－4) コメントシート
- 資料2－1) 自己評価書コンテンツ
- 資料2－2) 要点資料
- 資料2－3) 説明資料

以上